

宿縁

三月号

すべてを生かす

如来の智慧



新型コロナウイルス感染拡大が、まさかここまで身近に社会生活や経済に影響が出る事態になるうとは思いませんでした。きっと皆さまにも思いがけない事態が訪れ、困惑されているのではないのでしょうか。お寺の諸行事も万が一ということを考え、当面中止せざるを得なくなりましたので、ご了承をお願い致します。

なるべく人との接触、外出や人込みを避けるといふことになると、残された生活手段は通信機器によってコミュニケーションを取

千葉県市川市国府台五丁目二十六番二十九号

浄土真宗
本願寺派
中原寺

TEL 〇四七―三七二一〇二九二
FAX 〇四七―三七二一〇二六二

る方法しかありません。いままでのようにOA機器は苦手だなどと言っていられなくなりしました。

人間は昔から不測の事態になるとどうして良いかわからず戸惑いますが、きっとそこからまた光を見出して立ち直る能力が与えられているから過度な心配はいりません。歴史は途絶えることなく今日まで続いてきたのですから、いや人間だけではなくあらゆる生き物にはその時その時の状況に対応できる資質があるように思います。

当たり前に過ごしてきたことが当たり前にいなくなつた時こそ、眼や心の角度を変えることが必要で、きっと新しい道が見いだされることと信じます。

思い起こすと九年前に起きた東日本大震災の時、夜となく昼となくテレビからは被災地の惨状と被災された方々の窮状が繰り返し流されました。そうしたテレビの映像の合間にACジャパン(公共広告機構)が流した金子みすゞの詩を覚えていますか？

【こだまでしょうか】

「遊ぼう」っていうと

「遊ぼう」っていう。

「ばか」っていうと

「ばか」っていう。

「もう遊ばない」っていうと
「遊ばない」っていう。
そうして、あとで
さみしくなつて

「ごめんね」っていうと
「ごめんね」っていう。

こだまでしょうか、
いいえ、誰でも。

東日本大震災直後の緊迫した状況下で、連日被災者支援の為にテレビ番組が放送されていきました。テレビコマーシャルも自粛した内容配慮したものも放送する中で、その差し替え用にACジャパンが作成したのが歌手のUA(ウーア)朗読によるこの「こだまでしょうか」でした。

自分が発する言葉と同じ言葉が相手から帰ってくる。まるでこだまのように……でも、こだまじゃない。自分が素直になれば相手も素直になる。どんな人でもそれは同じということでしょうね。

一見何ら関係のないように思うこの詩の内容ですが、不思議と心が癒されたことを覚えています。

この時からなんとなく気に留めていたのが公共広告機構ACジャパンでした。どういう組織なのかというと、民間の力で、少しでも世の中のお役にたつ活動をしたいと1971年7月にサントリーの会長、佐治敬三が大坂を拠点に設立したのが始まりです。そして、様々なメディアを通じた公共広告により

啓発活動を行っている公益財団法人です。そういえば覚えている方も多いいと思います。かつて「投げたらあかん！」とか「ジコ虫、増えてます！」という言葉がはやり、その広告が町や駅に張り出されていたことがありましたね。

「投げたらあかん！」は1985年の青少年非行防止キャンペーンで近鉄の300勝投手鈴木啓示が発したフレーズです。一昔前の話ではありますが人生投げたらあかん！というのは、いつの時代でも適用する言葉ですね。

人生、いつもうまくいくとは限りません。それどころかうまくいかないことの方が多いのではないのでしょうか。しかし、結果が出ないからといって「もうどうでもいいわ」と投げってしまったのは人生を棒に振ることになるのです。このこというときは逃げない、諦めないという精神的基盤を確立しておくことが大切だということです。

人間にとって精神的基盤は宗教です。真の宗教は、当たり前と思っていた人間の認識に待ったがかかることです。安易な復活を願う神頼みすることではありません。

真実浄土に招かずにはいられない如来の大慈悲のはたらきに立脚して、自らを律し自他を超えたやさしさに舵を取ることです。

耳を澄ませると彼方此方からブツダや親鸞さまの言葉に出会えます。善巧方便(ぜんぎょうほうべん)と云って如来大悲のはたらきは常にあらゆる手段・方法をもって己が身を包んでいるからです。

情報過多に惑わされず、仏教徒として共にこの難局を乗り切つてまいりましょう。

【寺灯雑記】

○新理事が加わり門信徒会役員会開く
2/16

令和2年度の第一回門信徒会役員会は新理事四名が加わって常例法座後の三時半から19名が出席して開催されました。

先ず、一期二年の任期満了に伴う新体制でスタートしたなか、新理事に就任した左記の四人にご住職から委嘱状が渡されました。

*平邦雄さん *福島秀昭さん

*星野修一郎様さん*山本由美子さん

議事に入り、元年度の決算報告並びに修繕費積立金の報告。そして二年度の予算案では収入の減額に対し行事費、運営費が増額され、協議されたのち承認されました。

また主などころでは役員役割分担、本年のご旧跡参拝旅行について話し合われました。

新三役は、会長河合功さん(再)、副会長には福島道弘さん(再)・太田清史さん(新)が選ばれました。再任の理事さんと共々よろしくお願い申し上げます。

尚、退任された方々には大変お世話になりました。ありがとうございます。

○千葉組連研履修者研修会に参加

2/24

千葉組の連続研修会を終えた方々を対象にした研修会が千葉市の大願寺を会場に開催され、当寺から3名が参加しました。

研修テーマである「お浄土とは何ですか?」との内容で講師の菅原智之師(松戸市・高林寺)より、問題提起の後に班別話し合い法座が行われました。まとめの法話では「お浄土とは『清浄なる仏国土』のことで、

限らない欲望を持つ人間の迷いの世界(娑婆)の延長ではなく真実のいのちに目覚めたお悟りの世界である」とお話しくださいました。

○各種行事が相次ぎ中止

2/18に予定されていた塩浜ホームでのボランティア活動、2/29の教行信証を学ぶ、3/3の東京教区仏教婦人会連盟一日研修会、3/4〜5の千葉組仏教壮年一泊研修会は新型コロナウイルスの影響により中止となりました。

また当寺住職が出講予定でありました築地本願寺の常例布教も2/27〜3/15の間、中止となりました。

○ウイルス騒動に思う

各種報道で既にご存じかと思いますが、このウイルス騒動のなかでトイレトペーパーやティッシュペーパーが不足するとの虚偽の噂により、スーパーや薬局に買い求める人が殺到している状態が続いているようです。

マスクやトイレトペーパーを購入するために無用に殺気立っている様子に対し、店員さんが「コロナよりも怖いのは人間だった」とツイッターに悲痛の叫びを挙げたそうです。このような状況だからこそ、冷静な対応を心掛けたいものです。

【ご旧跡参拝旅行の予定】

*五月二十四日(日)〜二十五日(一泊二日)

*宿泊〓母畑温泉

*参拝寺院〓白河市常瑞寺、大田原市正浄寺

【仏教語講座「達者」】

「お達者で何よりですね」

「この人は水泳が達者だね」

「あの人は芸達者ですよ」

「お達者な口ですこと」

達者にはいろいろな意味があるようです。学術や技芸の道に熟達した人や、ものごと上手な人、ちよつと軽蔑の意味を込めて、したたか者、あるいは健康状態の優れていること、または、足や腰など体が丈夫なことなど、その意味するところはさまざまです。

親鸞聖人が「倭国の教主」(日本のお釈迦さま)と仰がれた聖徳太子。その聖徳太子が示された『十七条憲法』の第一条に「和を以て貴しと為す」とあります。たいへん有名な言葉ですが、その後に「亦(また)、達者少し」という語句があります。この場合、達者を「さとれるもの」と読んでいます。

仏教では、このように、真理に到達した者とか、悟った者とか、大局を見通している者のことを達者といいました。

達人とか達人(たつどうじん)という場合もあります。

それが、さまざまの意味に発展していったのでしよう。

三月を迎えても、風邪やインフルエンザが猛威を振るっています。みなさん、お達者でお過ごしください。

(機関誌「大乘」三月号より)

【三月の法座・行事の中止】

現在、国内において新型コロナウイルスの感染拡大が確認され、深刻さが伝えられています。お寺のある市川市内においても感染者が確認されました。このような現状を鑑み、きわめて残念なことでありますが、やむなく以下の法要・行事を中止することといたしました。お墓参り・個人による参拝につきましては従来通りにお参りできますので、彼岸期間中を問わずお気軽にご参拝ください。皆さまにはくれぐれも感染しないようにお体お大切にお過ごしください。

● 3/7(土) 婦人会法座

● 3/9(月) 子育てサロン「パンダっ子」

● 3/20(祝) 春季彼岸会法要

● 3/26(木) 宿縁廟法要

● 3/28(土) いのちの居場所を考える会

● 4/5(日) 教行信証を学ぶ

● 花まつり

尊い仏縁に遇うご縁を減らしてしまうことは誠に心苦しいことではありますが、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

【三月の掲示板のことば】

コロナ車は生産中止

仏法はいよいよ増産